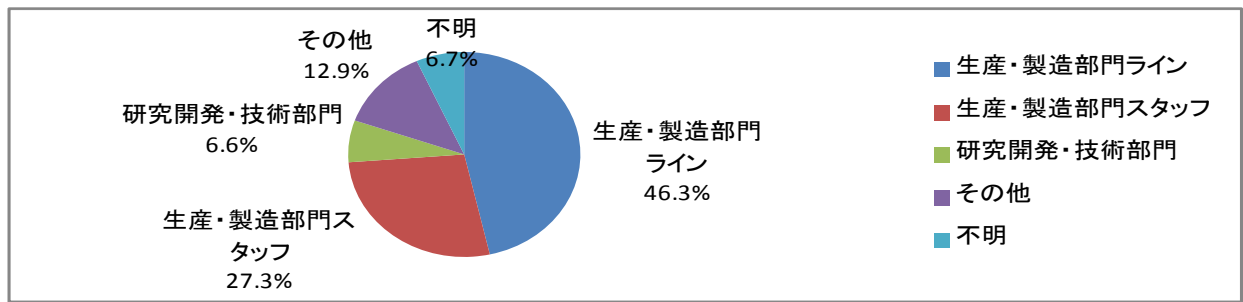


【2】職種別、階層別の特徴

生産マイスター検定は、主に 1,040 万人の製造業を中心とした「ものづくり中核人材の育成」を目的として開発された検定です。そのため、第 11 回も例年どおり受検者の 46.5%が生産・製造部門ラインとなっています。また、生産・製造部門スタッフと研究開発・技術部門の合計は全体の 33.9%を占めており、生産・製造部門ラインと合わせると全体の約 80.4%となります。まさに、製造業の皆さんが全社一体となって、「共通言語」や「制度受検」といった取り組みをされていることがうかがえます。

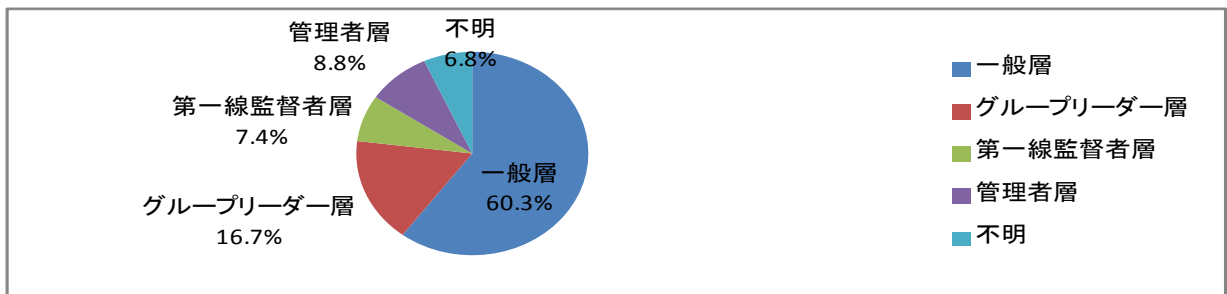
一方、受検者の階層を見ると、「一般層」が受検者全体の 60.3%割を占め、その多くが 3 級、またはベーシック級を受検しています。「グループリーダー層」は全体の 16.7%で 2 級、または 3 級の受検が多く、「第一線監督者層」と「管理者層」は合わせて全体の 16.2%で主に 1 級、または 2 級の受検が多くなっています。

●職種別の内訳



職種	1級	2級	3級	ベーシック級	計	割合
生産・製造部門ライン	47	147	286	224	704	46.5%
生産・製造部門スタッフ	61	103	143	107	414	27.3%
研究開発・技術部門	19	26	33	22	100	6.6%
その他	21	49	69	56	195	12.9%
不明	9	17	27	49	102	6.7%
計	157	342	558	458	1,515	100.0%

●階層別の内訳



階層	1級	2級	3級	ベーシック級	計	割合
一般層	50	150	352	361	913	60.3%
グループリーダー層	19	72	131	31	253	16.7%
第一線監督者層	40	55	13	4	112	7.4%
管理者層	39	49	34	12	134	8.8%
不明	9	16	28	50	103	6.8%
計	157	342	558	458	1,515	100.0%